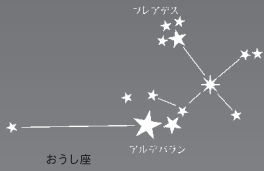


ポラリスを仰ぐ北の大地から



藤嶋先生

赤平市医師会 会長 郡 正博

芦別市医師会の藤嶋先生が昨年突然に亡くなりました。赤平市医師会の会長になって赤川先生を見送り、今回はとなりの芦別市医師会の藤嶋先生を見送ることになりました。両医師会は二つとも小さな医師会で同じような人数ですので、私が会長になったときにはすべて藤嶋先生に教えてもらったようなものです。私も実家が芦別市にあり、また女房も内科医として市立芦別病院に長い間お世話になりました。特に毎年藤嶋先生にはふぶをご馳走になり、ヤカンでひれ酒を飲むという宴会を楽しみにしていました。

私が先生の体調が悪いと聞いたのは芦別市の患者さんからでした。しかし、その一ヵ月前に同じ会議で横に座っていつもどおり話をしていましたので、“うそ”としか思えませんでした。先生が大丈夫かなと思って何回も藤島内科の前を通ってみて診療中の看板を見てガセネタと思ったほどです。しかし黄疸が出現し、どうやら悪いものらしく、診療所も閉院するという情報も入り、打つ手もないのかなあと思いました。

先生とは個人的に二人だけで酒を飲んだことはありませんが、ブロック会議後は飲みながらよくしゃべり、小さな医師会の悩み事を話したものです。残念ながら亡くなられ、お通夜には北海道医師会会長の長瀬先生も参列していただきました。私は告別式でお別れをしましたが、早すぎるよ！藤嶋先生！としか言えませんでした。

藤嶋先生！奥様は今までどおり英会話のサークルや、スキー学校に参加していますよ！いろいろと本当にありがとうございました。今は橋本新会長と仕事をしています。安らかに眠りください。



群馬県を訪れて

富良野医師会 会長 小山内裕昭

去年の春頃、息子が働いている群馬県を訪れました。渋川市の伊香保温泉に宿泊した際に「日本のまんなか渋川へそ祭り」と書かれたチラシを見て驚いてしまいました。チラシには傘をかぶり、お腹を出したキャラクターが描かれていて、私が住む富良野で毎年7月28、29日に行われている「北海へそ祭り」にそっくりです。へそ祭りはお腹に目や鼻、口をかいて顔にし、踊りながらお腹を膨らませたり凹ませたりして、「顔」の表情を変化させながら踊ります。体型によって表情に違いがあって、お腹が出ている方が迫力があったりユニークな顔になるので、お腹が出ている人ほど祭りの主役になれる。去年は58団体約3,000人が参加し、外国人も飛び入りで参加するくらい賑わうお祭りです。

私が勤めている富良野協会病院からも毎年参加し、私も若い頃は腹に顔を描いて踊っていました。最近は腹に描いて祭りには参加してないですが、去年は看板を持って先頭を歩きました。

息子によると、渋川市は日本の真ん中ということで、町おこしのために同じく北海道の真ん中である富良野のへそ祭りを参考にして1983年から始まったそうで、今でも1,000人近くが踊る大きな祭りだそうです。まさか北海道から遠い遠い群馬でこのような縁があるとは夢にも思わず、泊まった伊香保温泉も石段が続いて、その途中にお土産物屋や饅頭屋、遊戯場が並んでいながらジブリ映画「千と千尋の神隠し」を思い起こすような温泉情緒あふれる町並み。訪れるまではあんまり知らなかった渋川市にとっても愛着が湧いた旅でした。

私も、若い頃はお腹も出ていなくて、富良野で踊ったへそ踊りでは、表情の乏しいお腹でした。けれど今では体重も15キロ近く増え、今なら腹をゆらして踊るのにちょうど良い体型だと思います。運動も兼ねて今年は参加してもいいかもしれない。…時間があれば渋川市でも。そう思っています。

